2016年（平成28年）4月14日（木）　建設経済新聞

亀岡で28年度社員研修開催

未来の建設人へ“学び”

京都府建設業協会

一般社団法人京都府建設業協会（岡野益巳会長）は13日、28年度社員研修を亀岡市本梅町の京都・烟河で開催。初日の13日はビジネスマナーやコミュニケーションなど社会人としての基礎知識を中心に学習。一泊し14日は建設業の基礎知識や安全リスク管理などを学ぶ。

研修は会員企業の25歳以下又は入社5年以内の社員を対象に例年開催しているもので、今回は46人の若手社員が参加した。

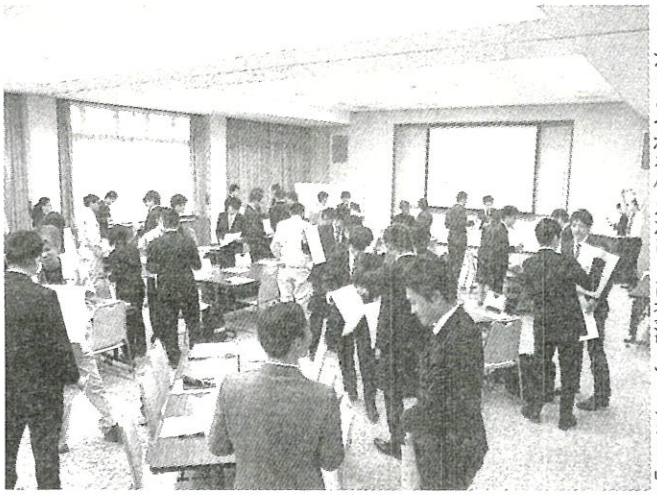
中川労務経営委員長

中川雅勝労務経営委員会委員長が冒頭挨拶に立ち、「建設業は地域を支える基幹産業。一昨年の福知山の浸水被害などでは復旧に尽力し建設業が地域にとって不可欠であることが再認識された」「技能労働者の減少、技術者の高齢化、若手入職者の不足で技能継承が難しくなっており、担い手の育成は建設業にとって最重要課題」「研修では担い手の皆さんに建設業の使命・役割を十分理解してもらいたい」「社会人としてのマナーなどはもちろん、建設業の構造、安全管理などをしっかり学んでほしい」「未来の建設人として学び、一つでも多くのことを吸収し、社会人生活に役立ててほしい。企業の枠を超えた交流をしてほしい」と参加者を激励した。

講師の田辺氏

ビジネスマナー講師でキャリアカウンセラーの田辺直子氏が「ビジネスマナーの基礎・基本」をテーマに講演。田辺氏は、グループ分けされた参加者に自己紹介文をまとめ用紙への記入を求め、各自が記入したその自己紹介メモをもとに「3分間でできるだけ多くの人と自己紹介してください」と呼びかけ。

田辺氏は「人見知りの方などは3分間は長いと感じたかもしれないが、自分から積極的に行う必要がある。工事現場や営業先でわからないこと、困ったがあればしっかりとそれを伝えないといけない」と指摘。続いて「5人グループの全員に共通することを3分間でまとめてほしい」と呼びかけ。「出会って数十分の段階で、共通点をみつけられるのもまだ5～6個くらい」とし、「1泊2日の研修を通じて共通点がたくさん出るように交流してください」と訴えた。



研修の様子（京都・烟河）

田辺氏は「建設現場は安全第一。大きな声で伝えることが重要。聞こえないと存在しないことになる」「施主など多くの関係者に対し挨拶等は自分から進んで大きな声でしっかり行う」「聴こうとする姿勢が大事。同僚、上司・部下の関係でも同じ。これにより情報共有がうまくいく。最終的に業績アップにつながる」などと語った。

14日はハタコンサルタント㈱の技術・経営コンサルタントの三浦規義氏が講師となり、「建設業で働くための基礎・基本」をテーマに、他産業との違いや特徴、仕組みなど建設業の基礎知識、実際の仕事内容、安全リスク管理、建設業の5Sなどについて講演する。参加者は最後に個人プレゼンテーションを行う。

社員研修は京都サンダー㈱が協力した。

2016年(平成28年) 4月14日 (木) 第6299号

府建設業協会

会員企業対象に新人研修
業界の基礎知識学ぶ
会社枠超え人脈づくりも

(一社) 京都府建設業協会 (岡野益巳会長) は、13・14日の2日間に渡り、会員企業の新入社員らを対象にした研修会を亀岡市にある旅館「京都・烟河」で開催。参加した46人は、業界の基礎知識や仕事に取り組む姿勢を学ぶとともに人脈づくりに努めた。

冒頭、挨拶に立った同協会・労務経営委員会の中川雅勝委員長 (中川工務店) は、「建設業は災害復旧など様々な面で地域を支えている基幹産業だが、近年では若年層への技術継承が難しくなっている。今回の研修会では、社会人に必要なビジネスマナーなどを学んでもらう。また、企業間の交流を深めるいい機会でもある。積極的に学び、未来の京都をつくる“建設人”になってほしい」と期待を寄せた。

挨拶する中川委員長

この日、講師を務めたのはキャリアカウンセラーの田辺直子氏 (京都サンダー)。情報共有の大切さや社会人に必要なビジネスマナーについてグループワークで実践する形式で講義した。グールプごとに別れた参加者は、初対面同士で戸惑いながらも徐々に打ち解け、楽しみながら学んでいた。

講師を務めた田辺氏

2日目の14日は技術経営コンサルタントの三浦規義氏 (ハタコンサルタント) が「建設業で働くための基礎・知識」と題した講義を行う。二人一組のロールプレイング形式で安全リスク管理や建設業の5Sの基礎知識などについて学ぶ予定だ。

グループワークの様子

この取組は、25歳以下または入社5年以内の者を対象に、建設業界への理解を深め、チームワークの大切さなどを学ぶために毎年開催している。一泊二日の合宿形式で、寝食を共にするため、交流がより深まると評判を呼んでいる。